

# まちかど 特派員のページ



こうかまちかど特派員

たかい たかこ  
高井 貴子

会場に並び竹灯籠は若いお父さんグループが中心となり、アイデアを出し合いながら4

全てが手作り、地域で参加

夕闇が深まるにつれて、会場に飾られた1200個を超える竹灯籠にろうそくが灯されていきます。賑やかなお祭りとは一味違い、しっとりとした風情が漂い、浮かび上がるろうそくの明かりが、一昔前の世界に戻ったかのような雰囲気会場を包みこみます。



▲ハンドベル演奏をする「ぼよぼよず」

風情漂いしんじゆんの夜

18時30分、浴衣を着た園児や児童が次々と集まり、ハンドベル演奏「ぼよぼよず」の涼やかな音色で「くもい竹宵のタベ」が始まりました。

雲井自治振興会が主催する「くもい竹宵のタベ」が、7月2日に信楽高原鐵道の雲井駅広場で開催されました。竹灯籠の幻想的な明かりに包まれた住民手作りのお祭りを紹介します。

## 手づくりの竹灯籠が美しい くもい竹宵のタベ



▲巨大ぼんぼちやんのろうそくアート ©里見淳

月から手作りで準備したものです。梅雨の季節を考慮して雨よけの工夫を施し、七夕飾りや短冊を楽しめる竹アーチやコンサート会場の竹製ベンチの作成まで、一つひとつにお父さん方の努力や頑張りがうかがえます。

雲井小学校PTAも、児童たちと一緒に5メートルもある信楽町観光協会マスコットキャラクターの巨大ぼんぼちやんのろうそくアートを作り、会場を彩りました。

また、4年目を迎えた今年は、雲井小学校の先生方もバンドを組んで初出演するなど様々な方が参加しています。大喜びの子どもたちと一緒に、懐かしの校歌を熱唱する年配の方々も輝いていました。

田舎のこころ

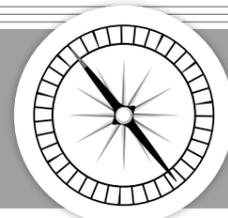
会場のお知らせにゆれる色とりどりの短冊には、来場者はもちろん、地域の子どもから高齢（いきいきサロン）の皆さんまで、幅広い年代の方が願いを書きました。七夕の星空のもと、訪れた人たちは自分や友達が書いた短冊を探したり、懐かしい人との再会を言ったりしていました。

ステージ発表やお楽しみ抽選会、そして焼きそばやかき氷などの出店まで、全てを地元の皆さんが企画運営されて会場を盛り上げています。最後に出演された雲井の人気グループ「ハミングバード」さんの演奏や歌声も心地よく響きわたっていました。

ろうそくのやさしい明かりに包まれた、どこか懐かしい雰囲気の「くもい竹宵のタベ」は、来年も七夕の頃に開催される予定です。子どもから大人まで住民参加で作りあげられるお祭り、来年はどんなイベントになるのか今から楽しみです。



▲七夕飾りを見る子ども



# 地域市民センター 東西南北



▲協力してピザの生地づくり

## ホットプレートでピザづくり 【土山地域市民センター】

土山中央公民館主催の親子ふれあい講座が、6月18日に土山開発センターで開催されました。

今回は、講師にKONA 工場の山川邦子さんを迎え、ホットプレートを使った本格的なピザづくりが計画され、4家族11人の方が参加されました。

親子で協力して生地づくりから始め、ホットプレートの中で大きく焼き上がったピザを見て、みんな満面の笑顔でした。

「小原いきいきサロン」 笑顔顔には福が来る  
「小原地域市民センター」

小原自治振興会主催の高齢者サロンが、6月25日に小原小学校多目的ホールで行われ、110人の参加者がありました。

講師に、三遊亭楽団治さんを迎え、参加者をうなずかせると話術で健康と笑いについて楽しく学びました。また、落語「シルバー結婚式」では、生の落語に引き込まれ、会場が笑いの渦に包まれました。



▲小原いきいきサロンの様子

## よみがえる八田焼 【伴谷地域市民センター】

八田焼は、400年以上の歴史があり、伝統的価値のある焼き物です。

平成17年に窯元の方が急逝されたことで、八田焼を作陶する方がいなくなりました。地域では、伝統のある焼きものを再興したいとの声が多く、八田焼保存振興会の努力により、勝浦明比古さんが水口町八田で作陶することになりました。

勝浦さんは、八田焼の陶芸家として平成24年1月から、八田焼の陶片や形から研究を重ねられ、新しい風合いも加わって、新たな八田焼の歴史を築き始めておられます。現在、八田焼保存振興会では、八田焼陶芸教室も開設されています。



▲八田焼の作陶風景

## 水田内の魚道で新たな発見

「佐山地域市民センター」

佐山小学校近くの水田内に魚道をつくり始めて4年目、年中、水を絶やさないとにより、目新しいヤゴやコオイムシ・カスミサンショウウオ・メダカ・ドジョウ・カエル・タニシが沢山生息する田んぼとなりました。

今年も佐山小学校の4年生16人が、田んぼ内の捕獲した生き物を分類する生き物調査を行いました。

児童たちは、すばらしい自然環境の中で普段触れ合う機会が少ない生き物との体験を通して、新たな発見をしていました。



▲水田内魚道で生き物調査